

新方領耕地整理事業（下）

道路は県道岩槻・野田線が、川通・武里地内で改修され、耕地内の道路は交通運搬、耕耘および灌漑排水の便をはかるために改良され、道路の種類も用途に応じて六種類とし、大字間の連絡用は道幅十尺二寸の里道、作道の延長が長い道を支道（道幅九尺）交通量の多い道を本道（道幅九尺）本道に直角に布設した横道を作道（道幅六尺）耕地内に点在する畑への道を小道（道幅三尺）宅地等の出入道を出入道（道幅七尺二寸）に区分配置した。耕地の区画は長辺を三十間、短辺を十間の長方形の壱反区に区画し短辺の一边に道路と小用水路を併設、他の一边に小排水路を付設して圃場の整備を行なった。

このようにして用水・排水・道路が区画整備され、交通運搬の能率が促進し、農産の生産量も増大して大きな効果をあらわしたのである。

明治末期から大正初期に大きな事業を完遂された先人の方がたの功績に対して深く感激し尊敬の念を禁じ得ないものである。しかしこの大事業に対して、豊春の新方袋・南中曾根・増富・増戸と大袋の大林・大房の

六大字が加入を拒み、また増林の排水改修工事に対する協力が得られず、他に新開堀を新設した等の事情により今日に至るも一部の低湿地に湛水が残る状況になったことは残念であると伝えられている。

市内の一部区域を顧みると、粕壁地内と谷原地内で常習湛水地が最近まで存在していた事でもうなずける。

区画整理施行以前の字馬草場・立沼・谷原新田・上大增新田・下大增新田は俗に「モツクリ地帯」と云われた腐殖土層であつて地盤が軟弱な場所のため湛水地では除堀という水溜めの堀があつた。近年になつて区画整理が実施され、その面影も消失し湿田地帯も整理されて立派な市街地として変貌して昔日の跡は全く無くなつている。水路も改修され増ノ川は暗渠となつて道路下に、会ノ堀と豊武川は流路の付替えが行なわれていまは市役所前にある。以前の水路は駅西口の間近かに素堀の水路であつた。その名残りが南町と区画整理地の境界にフェンスで囲われて流れている。

新方領耕地整理事業の完遂にあつて、反対派の種々の妨害や行動等、苦難の多かつたことが伝えられているがこの事業に尽力された人びとの中で、特に組合長として活躍され、完成間近の大正四年二月に没せられた、大場の原又右衛門氏と蓮田町の飯野喜四郎翁の連日連夜の努力と功績を忘れることはできないであらう。

この事業の記念碑が大枝地内の千間堀岸に建立されている。また原氏を称えた頌徳碑が大場の光明寺の門前に建立されている。

※歴史余話についてのご意見・ご批評を左記までお寄せください※¹。

春日部市粕壁東三・二・十九

粕壁小学校第三校舎内

春日部市史編さん室宛

初出 「広報かすかべ 昭和五十五年八月」かすかべの歴史余話

※1 掲載当時のまま作成しました。現在は、ご意見・ご批評を募集しておりません。また、市史編さん室は、

春日部市教育センターで活動しております。(平成二十八年十月現在)